

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の分析と改善に向けて

1 調査の概要

(1) 実施期日

令和6年4月18日(木)実施

(2) 調査対象学年

小学校第6学年(日田市:499人) 中学校第3学年(日田市:475人)

(3) 調査内容

◇教科 小学校第6学年 国語、算数

中学校第3学年 国語、数学

◇質問調査(児童・生徒)

(4) 調査内容の説明

◇「知識」に関する内容と「活用」に関する内容を一体的に問う調査問題

◇質問調査(児童・生徒)

・児童生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(5) 用語の説明

◇正答率:全設問に対して児童生徒が正答した割合(集団の場合は平均値)。

◇全国比:全国の平均正答率を100とみたときの日田市の割合。

◇偏差値:個人や集団の相対的位置を、50を基準とした指数として表す指標。

2 結果の概要

【小学校6年生】

《平均正答率(%)》

	小学校6年生	
	国語	算数
日田市	68	62
大分県	69	63
全国	68	63
全国比	100	98

【中学校3年生】

《平均正答率(%)》

	中学校3年生	
	国語	数学
日田市	52	42
大分県	58	50
全国	58	53
全国比	90	80

3 児童・生徒質問調査結果について

- (1) **生活習慣・家庭での学習習慣等に関する回答状況** (数値は肯定的回答の割合 %)

【自尊意識・将来に対する意識・学校生活・規範意識等】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	84.6	85.1	84.1	82.1	83.9	83.3
将来の夢や目標を持っていますか	86.6	82.6	82.4	63.4	67.1	66.3
学校に行くのは楽しいと思いますか	81.1	84.5	84.8	83.4	85.3	83.8

【基本的生活習慣・幸福感】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
朝食を毎日食べていますか	92.9	93.2	93.7	90.0	91.5	91.2
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	90.7	91.8	91.7	87.9	90.3	89.8

【社会に対する意識・地域との関わり】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
新聞を読んでいますか ※週に1回以上	7.3	8.6	11.6	6.6	6.8	7.3
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	87.0	84.6	83.5	82.0	78.6	76.1

- (2) **教科の学習に対する関心・意欲・態度に関する回答状況**

【国語に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
国語の勉強は好きですか	69.4	68.1	62.0	73.0	70.2	64.3
国語の勉強は大切だと思いますか	95.5	95.1	94.5	93.4	84.6	82.7
国語の授業の内容はよく分かりますか	85.8	88.6	86.3	80.4	84.6	82.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.3	93.7	93.2	91.1	91.9	90.6
解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※全て最後まで書こうと努力した	88.5	84.4	79.1	68.8	72.3	72.0

【算数・数学に関すること】

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
算数・数学の勉強は好きですか	66.6	62.2	61.0	56.4	57.4	57.2
算数・数学の勉強は大切だと思いますか	95.8	94.6	94.6	87.6	89.1	87.2
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	84.2	83.3	82.1	71.3	72.6	75.7
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	95.0	94.4	94.1	83.2	81.2	78.5
言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（解答を言葉や数、式を使って説明する）問題がありましたが、どのように解答しましたか ※全てで最後まで書こうと努力した	84.7	82.9	78.7	44.7	50.5	50.0

【英語に関すること】

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
英語の勉強は好きですか	76.7	70.3	69.3			
英語の勉強は大切だと思いますか	91.3	91.7	92.1			
英語の授業の内容はよく分かりますか	76.7	78.7	78.3			
1, 2 年生のときに受けた授業では英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか				77.7	84.5	83.3
1, 2 年生のときに受けた授業では英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか				79.5	87.4	85.6
1, 2 年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか				65.3	71.6	68.8
1, 2 年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか				71.7	81.1	82.4
1, 2 年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか				76.8	86.5	85.7

【授業改善・学習指導】※「主体的・対話的で深い学び」「新大分スタンダード」に関連

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか	87.0	87.1	86.3	81.4	87.1	86.1
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.6	83.2	81.9	74.9	87.1	86.1
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	67.3	62.2	67.6	57.0	58.4	64.8

4 クロス集計について

(1) クロス集計結果の概要

①児童生徒の朝食を食べる割合と平均正答率の関係

【朝食を毎日食べている】

選択肢	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	国語正答率	算数正答率	国語正答率	数学正答率
している	69.3	63.2	53.6	44.9
どちらかといえば、 している	63.2	58.4	46.1	34.2
あまりしていない	61.9	61.8	41.1	29.5
全くしていない	53.1	59.8	51.8	32.5

②個別最適な学びと平均正答率の関係

【5年生までに（1、2年生の時に）受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたか】

選択肢	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	国語正答率	算数正答率	国語正答率	数学正答率
当てはまる	72.0	67.0	54.7	45.6
どちらかといえば、 当てはまる	67.3	61.8	52.9	43.3
どちらかといえば、 当てはまらない	61.4	57.6	46.9	35.7
当てはまらない	55.8	39.8	36.7	32.2

③児童生徒の1日当たりのゲーム時間と平均正答率の関係(平日)

【普段（平日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか】

選択肢	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	国語正答率	算数正答率	国語正答率	数学正答率
4 時間以上	63.6	60.9	43.8	30.4
3 時間以上、4 時間未満	59.9	57.8	46.3	36.4
2 時間以上、3 時間未満	66.6	62.1	47.8	40.2
1 時間以上、2 時間未満	71.7	64.2	56.4	48.4
1 時間未満	74.5	65.9	60.4	50.8
全くしない	70.9	63.7	62.6	55.8

5 現状と分析について

<現状>

【小学校6年生】

- 国語は全国値と同じ、算数は1ポイント下回った。
- 教科の愛好度が全国に比べて非常に高い。
- 記述問題に対して「全てで最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国よりも高い。

【中学校3年生】

- 国語・数学共に、全国値を大きく下回った。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」生徒が、全国や県に比べて5ポイント以上数値が高い。
- 国語に対する興味関心や授業の理解度では、全国値を10ポイント以上上回っている。
- 数学に対し、「大切だと思う」「学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う」とする生徒が全国値を上回っているが、それに反して数学に対する愛好度は全国値を下回っている。
- 英語では、質問されたすべての項目で全国値を下回っている。特に、「スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動を行われていたか」に肯定的に回答する生徒の割合が全国値を大きく下回っている。
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」と回答した生徒の割合が全国値を5ポイント以上下回っている。また、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合も全国値を5ポイント以上下回っている。

【小中共通】

- 「前学年までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた」と回答する児童生徒ほど平均正答率が高い。
- 児童生徒の平日1日当たりのゲーム時間と平均正答率の関係をみると、ゲーム時間が少ないほど正答率が高い結果となった。中学校においては、「全くしない」と「4時間以上」で、20点以上の正答率の開きがあることがわかる。

<分析>

【小学校】

- 国語・算数共に、無回答率（回答しなかった児童の割合）がすべての問題において全国よりも低いことや質問調査の結果からも、意欲や最後まであきらめず取り組む粘り強さがあることがわかる。

【中学校】

- 質問調査の結果から、将来に向けて志を持っていることがうかがえる。
- 国語の興味関心の数値が高く、正答率と相反することから、今後の授業改善次第で理解度は増すと考えられる。
- 数学の、「数と式」の領域の正答率が、他の領域に比べて低く、また、知識技能の観点での開きが大きいことから、まずは「わかる」授業づくりと「できた」を感じられるように定着が求められる。

【小中共通】

- 「朝食を毎日食べる」等、基本的生活習慣が確立している児童生徒は平均正答率が高い傾向がみられる。
- クロス集計の結果から、個別最適な学びが行うことは、児童生徒の「わかった」「できた」を経て学力向上に結びついているといえる。

6 今後の取組について

「学習内容がわかりつつある児童生徒には、ドリルで定着させる。」

わかっていない児童生徒には、ドリルではなく理解させるための授業改善。」

青山学院大学 益川弘如教授の言葉（2024. 7. 22）

今の日田市の現状から、点数を偏差値 50 まで上げなければいけないのだが、「点数を上げる」という言葉は実に抽象的である。具体的に何をすればよいのかは、各学校の実態に応じて考えるべきであるが、日田市としては、まずは以下 3 つの仮説を立て、全校一斉に揃えて実践を重ね、まずは 1 月日田市実施学力調査で検証する。

（１）３つの仮説検証の取組

① C 児を B 児に引き上げることに焦点を当てた授業改善を行えば、全ての児童生徒が「わかった」「できた」と感じるのではないだろうか。

授業改善の再確認…C の児童生徒を B にする授業ができているか。

具体的には、学力調査で小学校・中学校共に、評定 1・2 の児童生徒を 1 段階上げるための授業改善を進める。可能な限り評定 3→評定 4 へ

- （１）子供の実態を総合的な数値だけでなく、個人を見つめなおす。
 - ・各教科 5 段階別一覧表を学級ごとに作成し、校内で共有する。
 - ・その学年を指導する教員で一覧を共有し、評定 1・2 の児童生徒が「わかった」「楽しい」と感じられるような手立てを工夫した授業を行う。
- （２）個別最適な学びと協働的な学びを適切に使い分けて、「わかる」授業づくりをする。
- （３）定着状況を把握するための評価や評価問題の実施。振り返りでの把握。
- （４）定着が不十分な児童生徒には、できる限りの補充学習を行う。（Qubena の活用）
例：帯時間で Qubena を行い、補充が必要な子供には直接指導を行う。など
- （５）1 月調査では質問調査がないため、学校独自で教科の学習が「好き」「わかる」を把握し、更なる分析・改善を行う。※小 5・小 6・中 2 は数値の報告を依頼する。

②組織的・継続的に Qubena に取り組めば、児童生徒の知識技能の力がつくのではないだろうか。

Qubena でドリル学習を強化することで、知識技能、特に理科・社会の定着を図る。

担任や教科担当任せではなく、学校組織として Qubena に取り組む。

- （１）取り組む時間（帯時間・授業開始 5 分間など）を学校で統一する。
- （２）ワークブック・5 分間復習など、何をするかを把握している。
- （３）家庭学習でも活用し、繰り返し何度も何度も解かせる。
- （４）自動採点であっても、理解度の見取りは確実にする。

③教科に関する調査及び質問調査の結果から、家庭と連携した取組をすれば、学習への関心が高まるのではないだろうか。

質問調査を含めた調査結果の分析を行い、具体的な対策を作成し、校内で共有する。

前述の「家庭での学習習慣に関する質問」や「家庭でのメディア使用時間に関する質問」の数値が近年変化していることは学力低下の一要因になるのではないかと考える。

- （１）HP への公開、学校だよりなどを活用し、現状を知らせる。
- （２）学力向上会議や学校運営協議会での議題に取り上げ、メディアルールを作ったり、家庭学習時間チェックをしたりするなど具体的な対策を講じる。
- （３）家庭と連携した具体的な取り組みを 2 学期から強化する。

(2) 各学校による調査結果の分析と具体的な対策の作成及び取組

- ・各学校は8月下旬までに、自校の学校質問調査と児童生徒質問調査及び、日田市分析、国立教育政策研究所の報告書や結果資料を参考に調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしたうえで、授業改善等の具体的な対策を講じ、2学期から取組を始める。

(3) 研究主任会の定期的開催（オンライン）

- ・日田市が目指す組織的な授業改善及び学力調査結果をもとにした授業改善に関する説明を校種別に開催する。
- ・2学期の3つの仮説検証の取組の進捗状況を交流する。

(4) 他市町村に学ぶ取組

- ・参考となる他市の視察に行き、好事例を取り入れる。
教科部会等を通じて共有を行う。

(5) 教科部会で授業改善研修の実施

- ・全教科担当者が参加する場において、大学教授や県の指導主事を招き、授業研究会とは別の研修を実施する。